

えんがわ通信

「えんがわ通信」休刊のお知らせ

「えんがわ通信」は本号をもって休刊いたします。これまで、ご愛読いただきましたみなさま、関係者のみなさまに心より御礼申し上げます。ありがとうございます。今後、イベントなどにつきましては、団体ホームページなどを通じて、お知らせいたします。引き続き、ご愛用くださいますようお願い申し上げます。

第27号 2014年3月

発行＊一般社団法人パーソナルサポートセンター
住所／仙台市青葉区二日町6-6 シャンポール青葉2階
電話／022-399-9662 FAX／022-224-1621
MAIL／contact@personal-support.org
WEB／http://www.personal-support.org/

クローズアップ

50代男性新天地で活路

PSC「こらぼ」リフォーム研修

「パーソナルサポートセンター」(青葉区・PSC)の研修で、将来に活路を見いだそうと努力する一人の男性がいる。青葉区内に住む50代の男性。一時は住む家を失いながらも、再び定職に就こうと、懸命に技術を身につけようとする姿勢は、研修先のスタッフから高い評価を得ている。

「内装関連の仕事は初めて。覚えることがたくさんあって、大変ですが、自分にとって向いていると、思っています。多くのことを学んで、たくさんのがりがいを見つけた。そう話す男性のこれまでの人生は、波乱に

「この壁は180センチ足りないんです」これは横張りをやってみよう」
2月上旬の昼下がり。青葉区北山にあるアパートの一室で、男性は壁紙の張り替え作業に臨んでいた。講師のアドバイスを聞きながら、メモを取る男性の表情は真剣そのもの。何度もその内容を確かめながら、作業をして



メモ帳片手に、講師の説明に耳を傾ける男性(右) その表情は真剣そのものだ

満ちていた。男性は、関西地方出身。職を転々とする中で「復興関係の仕事に就きたい」と考え、昨年10月に仙台にやってきた。しかし、思うように仕事が見つからず、仙台駅で寝泊りすることに。その後、石巻市内に仕事を求め、歩いて向かった。

「こらぼ」訓練生
「こらぼ」訓練生
シニアと若者ワークセンター「こらぼ」の訓練生が3月初旬から中旬にかけての4日間、お墓の清掃を実施した。お墓の清掃は、泉区のデザイン墓専門の石材店「いずみ」の協力で実現。20代から50代の男性6人が、供物を撤去したり、墓石の清掃をしたりする作業に汗を流した。

そのうち7日は、泉区朴沢のいずみ墓園で、作業を実施。時折、雪が舞う中、訓練生は真剣な表情で、作業に臨んでいた。

参加者の一人は「お墓を清掃することで自分の気持ちもきれいになった」と話した。「こらぼ」のプログラムに関する問い合わせは、平日午前9時～午後5時、同センター022(796)9552まで。

「新たな輪つくりたい」
震災の時、体が思うように動かない妻を背負い、マンションの9階から避難したことを覚えています。妻の介護をしていて、外出する機会はありません。ですが、「えんがわ」のイベントには、楽しく参加させてもらいました。

仮設住宅に入居後、入院していた時期もありましたが、退院後すぐに「えんがわ」に顔を出し、参加者やスタッフと和気藹々(あいあい)と話したりして、元気が出た気がします。

「えんがわ」で知り合った人と、街中でばったり会うこともあり、顔見知りも増えました。みんなワイワイできるような催しがあれば、これからも参加したいと思っています。

佐藤 文夫さん(60)
青葉区川内

えんがわの輪 14

「2から教えてもらえるのが、すごくありがたい。本当に感謝しています。ずっとこの仕事を続けていけるよう頑張りたい。そう話す男性の目は輝いていた。



学生とともに味噌づくりに励む参加者

この日は、宮城県の在来種「エンゾウマメ」と、極大粒品種の「ミヤギシロメ」の2種類の大豆を使って、味噌を仕込んだ。同大の石田光晴教授から味噌づくりの工程や、産地による麹(こうじ)の違いなどについて説明を受けた後、参加者は、水に浸された大豆を圧力釜で蒸す作業を体験。

「おいしい」などと盛り上がりながら、大豆に麹や塩を混ぜ合わせ、生地を仕上げた。味噌は20リットルの容器に詰め、今後、熟成させたのち、約2カ月後に完成し、参加者に配る予定だ。

Interview

児童福祉への強い思いが大切。子どもとの「ラポール」大事にしたい。

児童養護施設 仙台天使園 副園長 竹元しのぶさん

児童養護施設「仙台天使園」(太白区)は今年2月PSCの職業体験の実習生を受け入れました。実習生は、環境整備や読み聞かせのサポートなどを通じて、将来の仕事に対する意識を高めたようです。同施設の副園長の竹元しのぶさんに、受け入れの経緯などについてお話を伺いました。(聞き手はPSC就業支援部 大澤啓介)

今回、実習生を受け入れた経緯と、実習を実施した感想をお聞かせください。就労支援に対する理念

児童養護施設「仙台天使園」(太白区)は今年2月PSCの職業体験の実習生を受け入れました。実習生は、環境整備や読み聞かせのサポートなどを通じて、将来の仕事に対する意識を高めたようです。同施設の副園長の竹元しのぶさんに、受け入れの経緯などについてお話を伺いました。(聞き手はPSC就業支援部 大澤啓介)

次に「児童と直接的なかわり」をもってもらいました。3～5歳の児童に絵本の読み聞かせをする時に、同伴してもらい、子どものお世話をしてもらいました。高い場所に入った子ども

実習生に一番求められるのは、児童福祉に対する強い思いだと思います。子どもと触れ合いながら絵本を一緒に読むこと、コミュニケーションを図りながら一緒に食事を取ること、遊ぶこと、宿題を見てあげることなどカリキュラムの切り分けができるのが、当施設で実習をする利点と考えています。

農業体験記

柳生農場の近くには、間もなく、古民家を改装し、休憩所と交流サロンを兼ねた施設が完成する予定です。地域の方々と意見交換をしたり、収穫祭を実施したりして、農場を盛り上げていきたいと思っています。スイカの種まきも間もなくスタート。霜に負けないよう、初めてトンネル栽培に挑戦します。

TOPICS(4月)

パーソナルサポートセンター

封入手伝い 事前申込制：締切4/9

「復興定期便」(仙台市からのお知らせ)の封入作業の参加者を募集しています。

- 日時：4月22日(火)・23日(水)・24日(木)
9:15~12:00/13:00~15:45
- 場所：就労準備支援センター『わあくしょつぷ』
(仙台市青葉区二日町2-1 キムラオフィスビル7F)
- 謝礼：2,000円相当の商品券

◎申込み・問い合わせ：パーソナルサポートセンター
TEL：022-399-9662、080-4426-9824
FAX：022-224-1621

仙台友の会

お料理教室 事前申込制：締切4/11

料理教室を開きます。女性だけでなく、男性の方の参加も大歓迎です。

- ※4月以降も料理教室は引き続き開催します!
- 日時：4月16日(水) 10:00~11:30
- 場所：仙台友の家(仙台市太白区鹿野3丁目23-33)
- 定員：20人
- 持ち物：エプロン、参加費200円(実費)

◎申込み・問い合わせ：仙台友の会 [担当：藤田]
TEL：022-308-5009 / 090-6688-7073
※受付時間：火・金の10時~15時

仙台市産業振興事業団

就職や仕事に関する個別相談

プロのカウンセラーによる就職や進路・キャリアに関する個別相談です。(就職のあっせんではありません)

開催日時	定員	申込締切
4月23日(水) 13~20時	20人	4月16日(水)
5月12日(月) 10~16時	10人	5月7日(水)

- 場所：AER6階 情報・産業プラザ
- 対象：①学生・求職中の方(年齢不問)
②在職者(30代まで)[定員：20人]
- ◎申込方法：郵便番号・住所・氏名・年齢・電話番号・学生/求職中/在職中のいずれかを記入し、郵便・FAX・Eメールでお申込みください。

◎申込み・問い合わせ：仙台市産業振興事業団
〒980-6107 仙台市青葉区中央1-3-1 AER7階
TEL：022-724-1212、FAX：022-715-8205
Eメール：koyoushien@siip.city.sendai.jp

のびすく仙台

母乳なんでも相談 受付中

個別相談です。母乳に関することならどんな相談にも応じます。

- 日時：4月9日(水) 14:30~16:30
- 相談員：助産師(NPO法人みやぎ母乳育児をすすめる会)
- 定員：8人(1人15分程度)
- 場所：のびすく仙台 情報コーナー

ベビータッピングタッチ 3/29~申込開始

ステキな音楽をBGMに、からだにやさしくトントンとタッチしていきます。

- 日時：4月16日(水) 10:00、10:30、11:00
- 講師：花山 美佐代さん(インストラクター)
- 対象：赤ちゃんと保護者
- 定員：各回5人(30分程度)

4月生まれのお誕生会 当日申込

楽しいお話しや手遊びなどをしてみんなでお祝いします。記念撮影もあります。

- 日時：4月23日(水) 10:30~11:00
- 対象：1、2、3歳の子と保護者
- 場所：のびすく仙台 あかちゃんひろば

◎申込み・問い合わせ：のびすく仙台
TEL：022-726-6181、FAX：022-214-5071

えんがわ通信 求人情報

就労支援相談センター「わっくわあく」(PSC就労支援部)と提携する特定非営利活動法人「ワンファミリー仙台」が、求人情報をお届けします。
※特定非営利活動法人「ワンファミリー仙台」無料職業紹介事業(許可番号04-ム-300010)

パート 事務 青葉区宮町

パソコン入力、コピー、印刷、製本作業
給 与/時間給 750円
勤務時間/9:00~18:00の間の5時間程度、休憩時間:60分
時間外 月平均10時間程度
休日・休暇/日・祝日他(※応相談)
加入保険/労災(※就業時間により加入保険が変わります)
免許・資格/普通自動車免許(AT限定可)

有限会社 コピーセンタータナカ

正社員 建設作業員・とび工・土工 泉区将監

建設現場での仮囲いから躯体工事までの作業全般
給 与/月給 230,000円~460,000円(月平均労働日数23日)
※賞与あり
勤務時間/(1)~(3)のシフト制
(1)8:00~16:45、(2)8:30~17:00、(3)9:00~18:00
休憩時間:120分
休日・休暇/週休二日制
※現場スケジュールによる
加入保険/雇用・労災・健康・厚生
※雇用契約により応相談
免許・資格/免許・資格あれば優遇
経験あれば尚可

株式会社 明神 仙台営業所

パート 清掃 泉区明通

血液センター内の清掃
給 与/時間給 700円
+通勤手当(上限有)
勤務時間/9:00~17:00
※実働7時間
休日・休暇/土・日・祝日他
加入保険/労災(※就業時間により加入保険が変わります)
免許・資格/不問

株式会社 ビルワーク

契約社員 ※パートでも可(応相談) 福祉関係 青葉区千代田町

施設内での高齢者の介護・生活支援、及び食堂での調理補助
給 与/[契約社員]月給 176,000円
[パート]時給 800円
+通勤手当(上限有)
勤務時間/(1)(2)いずれかのシフト制
(1)7:00~22:00の間の8時間
(2)22:00~翌8:00
時間外あり
休日・休暇/シフト制(週休二日)
加入保険/[契約社員]雇用・労災・健康・厚生、[パート]労災(※就業時間により加入保険が変わります)
免許・資格/普通自動車免許(AT限定可)。契約社員のみ、介護業務経験。

NPO法人 全国コミュニティライフサポートセンター

正社員以外 製造(製本) 若林区六丁の目

製本作業補助
給 与/月給 145,000円~180,000円
+通勤手当(上限有)
勤務時間/8:30~17:30、休憩時間:60分
休日・休暇/土・日・祝日・他
※祝日のある週の土曜日は出勤
加入保険/雇用・労災・健康・厚生
免許・資格/普通自動車免許(AT限定可)
フォークリフト免許あれば尚可

有限会社 菊信紙工所

パート ホールスタッフ 青葉区国分町

「中華料理東龍門」での店内サービス全般(接客・給仕・片づけ・会計業務等)
給 与/時間給 800円
+通勤手当(上限有)
勤務時間/(1)(2)いずれかのシフト制
(1)11:00~14:30
(2)16:30~20:00
※就業時間は応相談
休日・休暇/シフト制(※応相談)
加入保険/雇用・労災
免許・資格/不問

中国料理 東龍門

※求人募集が終了している場合がございますので、あらかじめご了承ください。※ほかに求人があります。

求人に関する問い合わせ ▶ ワンファミリー仙台 求人担当 022-395-6364
就職についてのご相談 ▶ 就労支援相談センター「わっくわあく」 022-395-6323



被災3県の団体が結集 PSCキャンドル販売 仙台

被災3県で活動する各種団体の活動報告イベント「被災地 Home Coming Day(ホームカミングデー)」が2月25日から3月2日まで、仙台市青葉区の東北電力グリーンプラザであった。
東日本大震災の被災者支援に取り組み互理町のNPO法人「互理いちごっこ」などが主催。各種団体の報告のほか、仮設住宅の住民らが手作りする手芸品や小物などの販売も行われた。
そのうち、PSCのブースでは、「えんがわキャンドル」と「ころころにこまる」を販売。2つの商品合わせて、約60個を売り上げた。
初めて、イベントで販売した作り手の女性は「自分たちが手掛けたものが売れるのを実際に見ることができて、うれしいです」と笑顔で話した。

起業セミナーで 包装・展示学ぶ

IT関連サービス会社「ゆいネット」(青葉区)は2月20日、21日の両日、シニアと若者ワークセンター「こらぼ」で、商品の展示などについて学ぶセミナーを開いた。
セミナーは起業支援の一環で、2日間合わせてのべ22人が参加。参加者は包装紙を使ったラッピングや、店に商品を並べる時の効果的な方法について、熱心に学んでいた。

「えんがわ」のつばやき はなむけのことは

「きみたちは、がれきの山で芽を出し、花を咲かせた。千年先の命を守る活動を卒業後も続けてほしい」
2月下旬、女川中の教室で担当の先生は制服姿の生徒たちにそう呼びかけた。果立ち間近の3年生に贈った「はなむけ」の言葉だ。
生徒たちは、街が一面、がれきに覆われていた2011年4月に入学。以来、ずっと、津波対策に汗を流してきた。町を襲った津波の教訓を後世に残そうと、ある時は、町長に直談判し、ある時は、多くの大人を前に思いを訴えてきた。
熱心な活動ぶりが多くの人の心を動かし、1つ目の石碑が、昨年11月に完成し、多くのメディアに取り上げられた。町内21カ所に石碑を建てるため、今後、活動は後輩に引き継がれる。メンバーには、親や祖父母を失った生徒もいる。多くがいまも、仮設住宅暮らしだ。3年間苦労は絶えなかったであろうが、生徒にとって、人生の大きな糧となったに違いない。
「えんがわ通信」は今号で幕を閉じる。2012年1月の発刊から数えること27回。これまで、多くの人とのお会いがあった。
「毎月、スクラップしています」
かつて、鉱山で栄えた秋田県北部の小さな芝居小屋で、20年間、大衆演劇を演じた名物座長がいた。年齢は当時67歳。20年間で1万3000回を超える舞台上に立ち、ギネス記録を塗り替えた人だった。
引退前夜、座長は楽屋で薄っすらと涙を浮かべ、こう口にした。
「体が動かなくなったら、案内役をしたっていいんです。下駄箱の袋を持つ仕事でもいい。命ある限り、ここに関わりたい」
筆者もこの号で、筆を置く。最後の編集作業を進める中で、座長が千秋楽、スポットライトに照らされながら、発した言葉が脳裏に浮かんだ。
「木のぬくもり、人のぬくもり」。またお会いしましょう。どうかその日まで、お元気で」
(E)